



エアーツール取扱説明書

東空製エアーツールをお求め頂きましてありがとうございます。

正しいツールの取扱い使用は作業効果をあげるとともにツールの性能、耐久性を向上しますので次に示す事項を御注意の上、御使用下さい。

(1)給気について

- (イ)塵埃や水分の多い圧縮空気を給気しますとツールの故障の原因となりますので、「フィルター」又は水分分離器を給気管中に設置して湿気及「ごみ」を除去して下さい。
- (ロ)「コンプレッサー」のエアータンクの「ドレインコック」を作業開始時（朝、昼2回）に開きタンク内の「ドレイン」を除去して下さい。
- (ハ)特に大気中に湿気が多い時、又、雨天や冬季は「ドレイン」除去の回数を多くして下さい。
- (ニ)エアースホースをツールに接続する際は必ず空吹きを行って下さい。
- (ホ)すべてのツールは給気圧力5～7kg/cm²の範囲で御使用下さい。余りにも給気圧力が高いと故障の原因となり、又、低いときは能力が低下します。
- (ヘ)給気圧力と給気量は不可分の関係にあります。給気量が不足する「コンプレッサー」でツールを使用すると満足な性能を発揮しません故にカタログ記載のツールの空気消費量に見合う吐出量の「コンプレッサー」を御準備下さい。
- (ト)通常0.1m³/minの空気消費量のツールは約1P.S.の「コンプレッサー」が必要でツールの使用台数、配管中のロス等を考慮して、この割合以上の「コンプレッサー」での御使用をお奨めいたします。

(2)給油について

エアーモーターは高速回転を行いません。給油の不足は部品の発熱・摩耗を急速に進め、作動不良・性能低下等いちじるしく寿命に影響します。常に軽快に使用するためにまず適切な給油管理を行なって下さい。

機 種	潤滑箇所	推奨油	給油方式	給油量・頻度	給油口
エアーモーター グラインダー サンダー 各種小型ハンマー	モーター部 ギヤ部 軸受部	スピンドル#60 EP-2号 グリース	ラインオイル 又は手差し グリースガン 又は分解時	手差しの場合 約2cc 2回/1日以上 適量補給・交換 1回/2～3ヶ月	油栓又は ホース口 給油口又は 点検分解時充填
コンクリート ブレードカー 各種大型ハンマー	バルブ・ピストン 等の摺動面	ロックドリル オイル#32	ラインオイル 又は手差し	手差しの場合 約3cc 2回/1日以上	油栓又は ホース口
さく岩機 ハンマードリル	バルブ・ピストン 等の摺動面	ロックドリル オイル#100	ラインオイル 又は手差し	手差しの場合 約3cc 2回/1日以上	油栓又は ホース口
インパクトレンチ	ハンマー部	CLS-0号 グリース	グリースガン 又は分解時	適量補給・交換 1回/2～3ヶ月	給油口又は 点検分解時充填

(3)運転について

- (イ) ツールを運転する前に各部分を点検して下さい。外部に附着している塵埃を拭浄するとともに特にねじ、嵌合部等の弛緩、部品の欠除等を検し異常、又不具合なるときは修復して下さい。
- (ロ) 本作業使用前に短時間の試運転を行って下さい。始動の不調、異常なる音響、発熱、振動等を検し不具合なるときは運転を止め修復を行って下さい。
- (ハ) 打撃用ツール（ピックハンマー、ブレーカー、さく岩機等）では出来る限り空打ち運転は止めて下さい。又余り高圧の給気で長時間連続運転することは努めて避けて下さい。已む得ず長時間連続運転使用のときは防振対策（防振手袋着用）を講じて使用して下さい。
- (ニ) 回転用ツールのうち「グラインダー」は安全衛生規則に則って御使用下さい。又砥石の交換時の締付け作業は入念に行ってください。
- (ホ) 「エアーチェンブロック」又「エアーウインチ」は別冊で取扱説明書があります故、御覧の上安全第一主義にて取扱運転作業を行って下さい。
- (ヘ) すべてのツールの運転中に異常なる音響、発熱、能力低減が発見されたるときは直ちに運転を止めて下さい。

(4)管理・修理について

- (イ) ツールの不調、及能力低下はツール外の原因によることもあります故、上述の事項に御注意の上ツールを点検して下さい。
- (ロ) 明らかにツールが不調なるとき、又故障しているときは取扱店、又は弊社営業所に御連絡下さい。
- (ハ) 弊社営業所には常時交換部品を在庫して居ります。修理品は短時間にて修復して御手許にお届け致します。
- (ニ) ツールを長時間御使用にならないときは外部の塵埃を拭浄して、10~20cc #100スピンドル油をホース接続口から注入の上、湿気の少ない所に保管して下さい。

製作責任者	検査責任者	出荷責任者
(黒田)	(中原)	(栗)



株式会社 東洋空機

